

2. 「咬合誘導」口腔成育を担う歯科医療

Inter-disciplinary approach of oral care in developing child



特定医療法人 雪ノ聖母会 聖マリア病院 矯正歯科

Department of Orthodontics, ST.MARY'S HOSPITAL

森下 格 Tadashi Morishita

略歴

昭和 63 年 九州大学歯学部卒業

同年 九州大学歯学研究院歯学研究科歯科臨床系
歯科矯正学専攻入学

平成 5 年 九州大学歯学部付属病院矯正歯科医員、
日本矯正歯科学会認定医

平成 12 年 日本矯正歯科学会指導医

平成 14 年 (医) 雪ノ聖母会聖マリア病院矯正歯科医員

平成 15 年 (医) 雪ノ聖母会聖マリア病院矯正歯科診療
医長 ～ 現在に至る

Level Anchorage System Society 会長

チーフインストラクター

成育歯科医療研究会 常任理事 (学術担当)

咬合誘導とは、早期矯正治療とは基本的に異なる概念であり、矯正学における不正咬合の分類だけでは当てはまらない固有の障害（歯数の異常・埋伏歯・先天異常・外傷歯・習癖・機能異常・心身障害等）をもつ小児患者の咬合の育成を取り扱うものである（咬合誘導研究会，1996）といわれている。しかし、臨床ではこうした狭義での咬合誘導 Occlusal guidance と矯正歯科 Orthodontics との間に、なんら異なるところはない。そして胎生期から成人へのライフサイクルに沿った心身の健康に貢献すべき Oral care の実践に必要なことは、専門家としての知識に基づいて行なわれる目標の設定と技術の実践である。

私は青年期から成人におけるマルチブラケットシステムのなかでも診断過程で治療目標を重視した Level Anchorage System を採用している。目標は術者の知識から算出される理想的なものと患者個人の意思・適応力との negotiation で決める。小児においても行うべきことは同じであるが、今すぐ着手か？その目標は実現可能か？達成した目標は成人に至るまで安定しているか？方法論的に妥当性があるか？自分の能力を超えたときの連携先が確定しているか？といったことを検討すべきである。

早期矯正治療，ムーシールド，萌出誘導，インビザラインあるいはアライナー，Angle II 級の改善をキーワードに発表を進めていきたい。